

講演会要旨

1. 開催日 7月10日
2. 会場 11-25
3. 講演者 藤田善也
4. 演題 スポーツ科学を用いた競技現場へのアプローチ
5. 要旨

スポーツ競技選手の科学的サポートの一例として、バイオメカニクス（生体力学）的手法を用いて、高いパフォーマンスを発揮するために必要なクロスカンリースキーの滑走技術を解説頂いた。そのための方法として、スタート局面と主要滑走局面における滑走速度、滑走動作、および滑走中にスキー板とポールにかかる力を計測していた。屋外かつ雪上環境で、人間の運動動作を実測する難しさにも関わらず、成果を競技現場に生かそうとするスタンスに感銘を受けた。最近の研究成果として、クラシカル種目におけるスタート局面では、まずスタート直後の加速に優れるダイアゴナル走法を用いて、次にダイアゴナル走法より最高速度の高いダブルポーリング走法に切り替えるというコンビネーション技術が、高い滑走速度を得るために重要となっていた。またV2スケータリング走法においては、上肢（両方のポールのプッシュ動作）と下肢（片方のスキー板のプッシュオフ動作）による力の貢献がほぼ同等であることが示唆するものであった。また、スキー板のプッシュオフ局面では、スキー板に対して鉛直方向の力成分の割合が大きいが、スキー板の角度を用いてグローバル座標系に変換すると、左右および進行方向の力に分けられることが示された。さらに、股関節の外転運動を行うことによってスキー板を傾けていること、股関節の外転運動と股関節と膝関節の伸展運動によって力発揮が行われていることが示された。つまり、プッシュオフの力を高めるには、スキー板に対して股関節と膝関節の伸展運動によって鉛直方向に力を発揮しながら、股関節の外転運動によって力の向きを進行方向に向けることが重要であることも示唆された。

(文責 衣笠竜太)

開催日時：2012年12月6日

会場：23号館304

講演者：宮木 宗治

演題：スポーツイベントの社会的機能（元博報堂事業マーケティング部長）

オリンピックやサッカーW杯などを中心に、ここ数年スポーツイベントの経済効果や社会的役割が注目されるようになってきた。スポーツツーリズムの隆盛、スポーツコミッションの設立など、スポーツを経済や地域の活性化に結び付ける動きも活発である。本講演では、イベントの定義とは何か、また大規模イベントの経済効果や社会的役割といった具体的内容から「ゴミ拾い」や「雪合戦」などの身近な事象もイベントとして地域活性に結び付けている事例を伺った。

なぜスポーツイベントが注目されるのであろうか。健康ブーム、健康食品ブーム、マラソンブーム、メタボ対策等々挙げられる。国としては超高齢化対策⇒医療費削減と生きがいづくりが課題であり、民間事業者も商業化⇒ビジネス化を図り、これら〇〇ブームと関連づけた施策や事業が必然的に展開され

ていく。

またスポーツと別の領域を結びつけることで新たな世界も見えてくる。「スポーツ + 環境問題 = スポーツゴミ拾い大会」, 「スポーツ + 地域資源 = 国際雪合戦」, 「スポーツ + 観光地 = マラソンやトライアスロン大会」, 「スポーツ + 都市開発 = 国体, 五輪, W杯」等々。

イベントにおける6W2Hとは, Who: 誰が, Why: なぜ, What: 何を, When: いつ, Where: どこで, Whom: 誰に, How: どのように, How much: いくらで。従来は6W1Hで教えてきた者として, 最後の「How much」は, 新鮮で刺激的であった。

(文責 大竹弘和)